

楽しい学校・明るい家庭・豊かな社会づくり
第61回“社会を明るくする運動”



▲ 夏野推進委員長より受賞者に賞状が手渡されました

◀ ラポールでの作品展示



- 去る八月二日(作文)・四日(ポスター、標語)の二日間に亘り厳正な審査(保護司)が行われ、優秀賞として左記のとおり入賞を決定しました。
 - 作文の部 十名
 - ポスターの部 八名
 - 標語の部 十名
- (名簿は、次ページに

この作品コンテストは、第六十一回“社会を明るくする運動”射水市推進委員会がこの運動の関係行事の実施計画に基づいて実施したもので、射水保護司会では、学校部会が中心になり、このコンテストを通して、「非行や犯罪の無い明るい社会の実現」を訴え募集した結果、市内の小学校十五校、中学校七校から二千八百二十七名の作品の応募があり、その関心の高さに、心強く、この運動が着実に根付いている事を実感しました。

作品コンテスト表彰式
 — 優秀作品受賞者二十八名を表彰 —

第六十一回“社会を明るくする運動”作品コンテスト表彰式は、平成二十三年十月十日(日)・十四時より、アイザック小杉文化ホール(まどかホール)で開催されました。

掲載)

表彰式では射水市推進委員長・夏野元志市長の開会のあいさつに続き表彰状授与があり、各部門受賞者一人一人に賞状が手渡され、会場からは榮譽を讃える拍手が湧き上がりました。

恒例の部門別記念撮影を行なった後体験発表として、射水市立小杉中学校三年・石黒佳穂さんが、「涙」と題して、第四十九回富山県中学生生活体験発表大会・射水市代表(富山テレビ放送社長賞) 受賞の特別出演による発表を行い、会場に感動を呼び起こしました。

さらに、第六十一回“社会を明るくする運動”作文コンテスト・射水市代表作品として、次の四名の児童、生徒が富山県推進委員会へ推薦されました。

- 小学生の部
 - 市立太閤山小学校六年 宮越 津士 題 『魔法の言葉』
 - 市立歌の森小学校六年 岩田ひなの 題 『勇気をだして』
- この二作品は県推進委員会での審査の結果、優秀賞を受賞しました。

射水更生保護

発行・編集
 射水保護司会
 会長 米澤 治夫
 TEL 0766-52-4321
 〒934-8555
 射水市本町2丁目10番30号
 射水市福祉保健部 社会福祉課内

中学生の部

●市立新湊西部中学校三年 釣 希夢
『見えにくいもの』

この作品は県推進委員会での審査の結果、最優秀賞を受賞しました。

●市立新湊南部中学校二年 佐伯江美
『東日本大震災から学んだこと』

この作品は県推進委員会での審査の結果、優秀賞を受賞しました。

このうち三名の児童・生徒が作品を発表し、会場は新たな感動に包まれ、最後に米澤治夫射水保護司会長の閉会のあいさつにより当日の予定を終りました。



市立新湊南部中2年 佐伯 江美さん



市立歌の森小6年 岩田 ひなのさん



市立小杉中3年 石黒 佳穂さん
(体験発表特別出演)



射水保護司会長 米澤 治夫



市立新湊西部中3年 釣 希夢さん

作品コンテスト・優秀賞の皆さんは次のとおりです。

▼作文の部

太古山小	歌の森小	放生津小	堀岡小	小杉小	大門小	大門小	新湊西部中	新湊西部中	新湊西部中	新湊西部中	新湊西部中	新湊西部中	大門小	大門小	東明小	中太閤山小	中太閤山小	堀岡小	新湊小	太古山小	太古山小	
六年	六年	六年	六年	六年	六年	六年	三年	三年	三年	三年	二年	二年	六年	六年	六年	六年	六年	五年	五年	四年	四年	
宮越	岩田	谷口	竹林	宮越	川口	小島	釣島	本島	佐伯	金森	藤川	早瀬	友凌	百希	友凌	早瀬	橋本	橋本	朴智	廣岡	藤川	
津	ひなの	優	里	日	七	美	希	美	江	美	香	希	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香

▼標語の部

大門小	東明小	小杉小	中太閤山小	中太閤山小	太古山小	射北中	射北中	射北中	小杉中	新湊西部中	太古山小
六年	六年	四年	四年	四年	二年	三年	三年	三年	二年	二年	一年
松郷	小島	稲田	米林	高堂	山内	山内	山内	山内	長井	野井	コグレ
玲	泉	千夏	浩記	好花	菜緒	菜緒	菜緒	菜緒	悠貴	悠貴	サユリ

作品コンテストは、社会を明るくする運動「射水市推進委員会の行事実施計画に基づき、射水保護司会・学校部会を中心に実施したものです。学校部会は、全国の数ある保護司会の中でも注目されている部会です。「作文・ポスター・標語」、「中学生生活体験発表」の作品集を発刊し、今年度第六集を数えるに至っています。



▲ 1～5集までの作品集



射水市の「作品コンテスト作品集」の中には、射水市の児童・生徒の日常の出来事や体験からの思いや悩みなど純な気持ちがいっぱいこめられています。
小学生、中学生時代は、一生のうちで最も好奇心や、感受性が輝く時代であり、反面子どもから大人への準備期間でもあり精神的には不安定な時代と思われれます。それだけに、様々な問題と向かい合いながら必死に学校生活を送っているのです。
家庭環境の重大さも見過せないところであり、多忙で留守がちな両親や、家庭内でのトラブルなど親の事情に翻弄されながら一生懸命頑張っている児童やその事が原因で後に心を病んだ事例も見聞されます。「よく遊び、良く学ぶ」べきはずの児童はたまったものではありません。
地域の人間関係の希薄化が話題に上るようになって久しく、平成二十年八月、教育委員会・教育関係者との二回に亘る懇談会、今年度再び、機会を持つべく日程を調整中です。
「住みやすい地域社会づくりを指して」先の「富山県シンポジウム in 射水」のテーマにもあったとおりお互いを合わせ力を尽くしたいものです。

新たな年に思う



射水保護司会
会長 米澤 治夫

新年明けましておめでとうございませう。御家族お揃いで新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は日本史上類をみない災害が東北で発生しました。その地の更生保護関係者が犠牲になったり、家族を亡くした方も大勢出ました。

そんな中で、七月に我が射水市に於いて「第六十一回」社会を明るくする運動「富山県シンポジウムin射水」が開催され、七百余名の参加を得た事は、射水保護司会にとつて大きく得るものがありました。

今後予定される富山県更生保護大会も自信を持って対応することができるとでしょう。

また、第三回目となる市教育委員会との懇談会が開催予定日の前々日に中学生の自殺というショッキングな事件が発生し、中断延期となっ



たことはまことに残念でなりません。青少年健全育成のため改めて教育委員会と対話をして再開に向けた努力をする覚悟です。

今年辰年。射水保護司会には中部地区はおろか全国でも希な学校部会を持つております。この部会を中心に中学生生活体験発表大会、そしてこの大会での発表者の意見や、ポスター、作文標語を収めた文集の発刊、市内二十二校の小中学校との個別面談、意見交換を行ってまいります。日頃の学校との連携を密にし、教育委員会も含めた強固なトライアングルを構築しなければならぬと思います。

学校から非行といじめ等を排除しなければならぬと思っています。

今年度から社会貢献活動が実施されます。裁判員裁判が開始されてから、保護観察処分が付されることが多くなりました。そのため射水市内で社会貢献する場所の発掘が求められています。現在では「太閤山ランド」と「新港の森」しかありません。保護司の皆さんとともにケアハウスや介護施設病院の開拓が必要となります。今後とも、お互いに、健康に留意しながらがんばってまいります。

付記

※市教育委員会との懇談会

これは、棚元前会長が、地域の人間関係の希薄化、家庭内でのしつけ等が行き届かず、犯罪や、非行の抑止力が低下したのを憂い、市へ働きかけ、市長始め市教育委員会、教育関係者、保護司が参加し、平成二十年八月二十七日地域別定例研修の一環として開催されたのを第一回目とし、熱い意見交換がなされ、以後二回目を開催、第三回目を計画中です。

※社会貢献活動

保護観察中の人たちが地域社会において貢献活動を通じて、立ち直ることを目的としています。

◎活動の内容◎

公共の場所での清掃や、福祉施設での介護補助のほか、落書き消しや除雪など地域のニーズに応じて幅広い活動をおこないます。活動は継続的に行います。

詳細については第四期定例研修をお受け下さい。

立ち直りのきっかけは、どこにもあるんだ。

立ち直りを助ける社会の子カラ
社会貢献活動

法務省保護司
www.houmu.go.jp/naip/naip.html

ひと回メモ ご存知ですか？

社会を明るくする運動シンボルマーク

このマークは、ひまわりの花を図案化したものです。太陽に向かって咲くひまわりが、犯罪を犯した人の立ち直りを信じ、犯罪や非行の無い明るい社会を築こうとするこの運動の趣旨をあらわしています。

黄色い羽根

シンボルマークでひまわりの黄色をイメージするとともに映画「幸せの黄色いハンカチ」にヒントを得て作られたもので、黄色い羽根には私達の社会が、あやまちを犯した人たちが地域社会で生き直すのを支え、再犯防止のネットワークを大きく広げたいとの願いが込められています。



黄色い羽根



シンボルマーク
ひまわり

平成二十三年度表彰者紹介

平成二十三年度・富山県更生保護大会・富山県更生保護事業関係者顕彰式が、去る平成二十三年十一月十八日、「南砺市井波総合文化センター」を会場に開催されました。

◆法務大臣表彰

(保護司) 島木嘉子

◆法務大臣感謝状

(更生保護女性会員) 棚元静江

◆全国保護司連盟会長表彰

(保護司) 大濱晴彦

(保護司) 瀧内一雄

◆中部地方更生保護委員会委員長表彰

(保護司) 谷川義昭

◆中部地方更生保護委員会委員長感謝状

(更生保護女性会員) 高坂みどり

◆中部地方保護司連盟会長表彰

(保護司) 石村むつみ

(保護司) 高橋禮子

(内助功労者) 梅崎伸

◆中部地方更生保護女性連盟会長表彰

(更生保護女性会員) 池田なか江

(更生保護女性会員) 小松悦子

◆富山保護観察所長表彰

(保護司) 佐賀あさ子

(保護司) 富岡民生

(保護司) 広瀬秀昭

◆富山保護観察所長感謝状

(勤続十年保護司) 谷川義昭

(家族功労者) 川井やす子

(更生保護女性会員) 鈴木米子

(更生保護女性会員) 岩脇明美

(更生保護女性会員) 奥村篤子

(更生保護女性会員) 河畑富美子

(更生保護女性会員) 小井孝子

(更生保護女性会員) 東保恵子

(民間協力団体) 射水市小学校長会

今年度更生保護関係以外で活躍が認められ受賞された保護司の紹介

◆富山県功労賞

(産業経済部門)

米澤治夫

(県米穀小売商業組合理事長)

(日本米穀小売商業組合理事)

◆射水市市政功労賞

川口和香子

大濱晴彦

◆射水市社会福祉協議会会長表彰

(保護司) 前野昭次

(保護司) 南英子



▲ 奥へ奥へ夕日を送り山眠る 奥野 林火

地区の保護司紹介

各校下の保護司を紹介致します。住みやすい地域社会づくりをめざして地域に根ざした活動が期待されています。

放生津

檜物昭廣

江尻勝彦

真岸晴彦

大濱晴彦

大伴せつ子

旭辺八重子

谷口邦彦

梅崎一江

新中孝子

佐賀あさ子

長徳一彦

小杉一彦

瀧内幸雄

米田義幸

高島辰夫

本江重吉

坂井敏政

前野昭次

栗原政彰

片林政敏

谷川義昭

富岡民生

多賀正夫

石村むつみ

高松徹

七老江美

塚原

小杉

太閤山

歌の森

大門

大島

下

藍島

室田

林田

津田

高橋

米澤

炭谷

佐伯

森田

山本雅幸

五十嵐久

龍本茂樹

青木哲静

北村外雄

鈴木光正

山内花子

池内興舟

堀内浩昭

安田久美代

三宅陸夫

海内貞行

澤内英明

熊谷正克

寺腰健一

境文夫

山崎次平

川口和香子

川井英實

南井子

塚本秀樹

廣瀬秀昭

森田ひとみ

佐伯日登美

炭谷幸子

米澤治夫

高橋礼子

津田健志

林田弥生

室田清一

島田信子

部会だより

◆総務部会◆

富山県シンポジウムin射水を開催するにあたり、平成二十一年十二月二十日に準備委員会を設立、八回の委員会を経て平成二十三年二月二十二日実行委員会三回、全体委員会と保護司全員総力で平成二十三年七月十日アイザック小杉文化ホールで盛大に出来たことは、総務部会として、大きな活動だった。シンポジウムでは、五人のパネラー方々よりそれぞれの立場から現状、問題提起、そして解決への模索と熱のこもった意見交換を展開し、会場約七百名近い皆さんと爽り多くおわたった。

「住みやすい地域社会づくりのためには、地域、学校、家庭の連携が重要で、その人役として私達が働きかけなければならない。しかし、残念な事件が市内の中学校で起きた。まさにシンポジウムのなかで、PTA連絡協議会の立場から、いじめ、不登校、引きこもり等様々な問題が各学校にあると報告されていた、もっと早く、何らかの対処をすべきであったのか。来年度は、学校部会と一緒に、これまで以上に市教育委員会、地域自治会、そして家庭、私達とスクラムを組み、窓口を広く開き、子どもたちの実態を聞き、よき理解者となるよう取り組みなければと思っています。

◆研修部会◆

1. 研修部会について

保護司会研修業務の掌握

- (一) 研修計画立案と実施及び総括
- (二) 処遇実務に関する調査研究
- (三) 視察・交流会の計画立案と実施
- (四) 調査研究及び研修資料の収集と配布資料の作成
- (五) その他

4月22日 研修部、部会 今後の運営について

5月17日 第一期地域別定例研修会 「面接について」

6月12日 研修部、部会 今後の運営について

8月30日 第一期地域別自主研修会 富山保護観察所長 講演

10月18日 第二期地域別定例研修会 「就労支援について」

12月6日 第三期地域別定例研修会 「精神障害者等に対する処遇について」

平成24年
2月7日 第四期地域別定例研修会 「社会貢献活動について」
第四期地域別自主研修会
・保護司体験報告(米澤)

2. 保護司会について

・研修部員が順番に交代で司会進行す

る

3. 調査研究及び研修資料の収集と配布資料の作成

・保護司として、必要な情報を資料として提供する。尚、資料作成については、研修部内で検討する。(更生保護の在り方を考える有識者会議―法務省ホームページより)

4. まとめ

・これまでは、研修部担当一年生であり「手探り状態での運営であったと思います。」・「いかに研修効果を上げて行くか」・「内容はどの様なものにしていくか」・「魅力ある研修とは」とも難題であります。しかしながら、我々が実際担当し指導するのは「人であり、未来ある少年」でありましょう。私達の一言一動が大きな意味を持ちます。今後、研修部の運営にご指導賜りますようお願い申し上げます。

◆広報部会◆

11月4日 「富山更生保護」
・第百八十五号編集委員会
11月末日
・右記一八五号へ「富山県シンポジウムin射水」の概要について寄稿。
2月上旬

◆協力組織部会◆

協力組織部会に課せられた内容を今一度改めて読んでみました。
・協力雇用主、民間協力者等の発掘。
・社会資源開拓と組織化。

・右記に参加協力要請とある。

協力組織部会と協力雇用主、民間協力者は、切っても切れない間柄となる。お互いに更生保護に関心を持っていただき、継続的に協力して頂き、定期的な情報、状況確認等その役割がある。今年度一年を振り返って若干の反省点もありますが、新年度は、更なる前進、実践行動に精励したいものです。ご協力宜しくお願い致します。

◆地域活動部会◆

再犯防止に何より必要なのは、就労就学を始めとする安定した生活と、それを支える地域力です。
このため、保護司一人一人が直接地域の方に、黄色い羽根を配り、話をする機会を持つためのきっかけとして、今年度は海王丸パークでの街頭宣伝活動を企画いたしました。

各位におかれましては、ご協力をいただき感謝申し上げます。

◆学校部会◆

第六十一回 社会を明るくする運動
作文・ポスター・標語コンテスト優秀作品の表彰及び作品集の編集
第三十回 中学生生活体験発表大会
作品集を発行致しました。



◇事務局この一年◇

- 平成23年 4月19日 第一回理事会 総会事項
- 22日 平成23年度定期総会
- 27日 射水市更生保護女性会との協議会
- 28日 定期駐在
- 5月11日 第61回富山県社明運動推進委員会
- 17日 第一回地域別定期研修会
- 20日 射水市社会福祉協議会との協議会
- 23日 シンポジウム実行委員会
- 24日 パネラーとの打合せ
- 26日 保護司代表者協議会
- 26日 第30回射水市中学生生活体験発表大会
- 6月3日 地域活動部会協議会(二宅)
- 15日 シンポジウム実行委員会
- 21日 第二回理事会
- 26日 6・26ヤング街頭
- 28日 シンポジウム実行委員会・全体委員会
- 30日 射水市更生保護協力会理事会
- 7月1日 第61回社明運動射水市推進委員会
- 法務大臣・県知事メッセージ伝達

- 7月6日 射水市更生保護協力会定期総会
- 10日 第61回社明運動富山県シンポジウムin射水
- 17日 第49回 富山県中学生生活体験発表大会
- 18日 第61回社明運動街頭宣伝活動
- 26日 定期駐在
- 31日 青少年育成射水市民会議との協議会
- 8月3日 更生保護女性会との合同ミニ集会
- 6日 射水市更生保護協力雇用主との雇用勉強会
- 26日 薬物乱用防止フォーラム
- 30日 射水市PTA連絡協議会との懇談会
- 10月14日 第一期地域自主研修会(更生保護の動向について)
- 18日 第60回富山県社会福祉大会
- 27日 第二期地域別定期研修会
- 11月18日 定期駐在
- 11月18日 平成23年度中部地方保護司代表者協議会
- 23日 第45回富山県更生保護大会
- 12月6日 麻薬・覚せい剤乱用防止富山大会
- 第三期地域別定期研修会
- 自主研修会

平成24年
1月24日 定期駐在
2月6日 第3回理事会
7日 第4期地域別定期研修会
3月予定 自主研修会
理事会 中旬
会計監査 下旬

●保護司の異動

○退任保護司
(平成二十三年十二月二十日付)
島木 嘉子
山本 修

永きに亘りご苦労さまでした。

○新任保護司
(平成二十三年十二月二十日付)
小杉 一彦
佐伯 日登美

宜しくお願いたします。

●支援・協賛団体紹介

- ◇小杉ライオンズクラブ
- JR小杉駅前広告塔
- ◇新湊ライオンズクラブ
- ◇大門ライオンズクラブ
- ◇新湊ロータリークラブ
- ◇新湊中央ロータリークラブ
- ◇射水ロータリークラブ

- ◇社会福祉法人富山県協同募金会
- ◇射水市善意銀行
- ◇射水市更生保護協力会

“社会を明るくする運動”
中学生生活体験発表大会経費
社会を明るくする運動
啓発資料購入代

「支援、」協力有り難うございました。



編集後記

辰年の平成二十四年、あの大震災以来、何となく淀んだ世相の今日を抜け出し、昇龍のように気運上昇、前進、を期待したいものです。

前号は、シンポジウムの関連記事で発行がおくれた関係上、射水保護司会関連の行事は、大半のものが終了し、従って記事の量も増えた関係で八ページに及びましたが、今号は一年のまとめとして、コンパクトに六ページとさせていただきます。

寺腰 記